

# 能代市農山村地域再生可能エネルギー共生協議会第五回会議

日時 令和3年10月26日(火) 15:00~15:50

場所 能代市役所会議室9・10

## 会議概要

### 1. 開会

### 2. 案件

#### (1) 規約の改正について

##### <事務局からの説明概要>

今年4月に市の組織改編があったため、事務局の名称を変更する。商工港湾課をエネルギー産業政策課に修正し、農業振興課の前に農林水産部を加え、10月26日付けで変更する。

##### <協議結果>

異議なし

#### (2) 作業部会の検討状況について

##### <事務局からの説明概要>

- ・ 9/3に開催した作業部会において、風車の売電益を活用する農林業の健全な発展に資する取組の方向性を「未来志向の取組」とすることで取りまとめた。
- ・ 未来志向の取組案は、現時点で「風車の排熱利用」と「農業DX(デジタルトランスフォーメーション)」の2つが検討されている。この他、風車建設エリアと食育といったアイデアがあった。
- ・ 風車の排熱利用はビニールハウスに熱を供給し、能代ならではの冬場の農業、通年の農業を実現しようとするもの。農業DXは、人口減少時代にあっても持続可能な農業とするため、デジタル技術の導入による作業効率化等を図ろうとするものである。
- ・ 作業部会では、「排熱や地中熱利用は風車建設後だと導入コストが高くなるため、建設中の基礎掘削時に採熱パイプを先行して埋設できないか」といった意見や「農業DXは担い手の確保が課題である」といった意見が出されている。

##### <協議結果>

異議なし

以下のとおり意見交換あり

<意見交換>

座長

事務局

風力発電の「利益」とは、売電益を指すのか、電力そのものを指すのか。

風車の売電益を指している。売電益を「排熱利用」や「農業DX」等の技術開発に活用していきたいという趣旨である。

白神ウインド

発電時に直流電気だったものを送電時に交流電気に変換するときに、ロスとして熱が発生する。これをビニールハウスに供給できないかと考えている。

DXは、ドローンや自動トラクターのGPS位置補正といった技術開発が考えられるが、導入できる農家を確保できるかが課題だと思っている。

JA

冬場の育苗は暖房費がかかるので、熱供給ができるなら優位性がある。

ねぎの早期出荷を実現するには、秋に種まき、冬に育苗、雪解け後に出荷という流れが理想である。作業部会では山うど、ねぎ、アスパラという意見があったが、品目を増やしていくことも考えられる。

市長

競争の激しい農業において、どういう特色を出せるかが大事になる。そうした意味で、排熱利用は雪国の農業にとってプラスになるので、ぜひ実証に取り組んでほしい。

JA

1年間の農業に取り掛かる時季を冬場に設定するか、春先に設定するかで大きな違いが出てくる。通常、雪国は後者だが、この地域でなら前者でもやれる可能性が高い。

座長

農業が盛んで、再エネ資源も充実しているという地域は、日本中探してもなかなかない。大学や地元企業と連携して投資効果を何倍にもして行ってほしい。DXも実現できれば、関連産業の参入も見込める。

将来的に、再エネ由来のモノしか流通しない時代が来るかもしれない。能代から全国に先駆けて事例をつくっていけるのではないかな。

市長

水素にも注目している。高知県の南国市では電解水素水を使った野菜づくりの実証で成果を出している。この水素水を再エネ由来で生成することでできれば、大きな付加価値になる。それは能代だから取り組めることである。農業に関わらず林業でも同じことが言える。

JA

特殊な時季に、特殊な方法で育苗ができるのであれば、苗そのものの販売につなげることができる。CO2フリーの苗はどこでもやっていない。

座長

農業の規模を拡大してもコストが下がらないといわれているのが苗なので、収益が見込める。能代にはどの地域でもマネできない環境が整っているので、ぜひ積極的に取り組んでほしい。

### (3) 設備整備計画に係る認定申請書について

#### <事務局からの説明概要>

- ・ 発電事業者の白神ウインド合同会社から、設備整備計画の案が示されている。同計画に記載する「農山漁村の健全な発展に資する取組」は、協議会で事前に協議する必要がある。
- ・ 農山漁村の健全な発展に資する取組は、これまでの協議会や作業部会での検討を踏まえ、排熱利用や農業DXを基本としているが、風車の稼働予定は令和7年であり、売電益が生まれるのもこれ以降となる。この時間軸を念頭に入れた協議をしていただきたい。

#### <協議結果>

異議なし

以下のとおり意見交換あり

#### <意見交換>

東北農政局	農山村再エネ法の要の1つが、この「農山漁村の健全な発展に資する取組」といえる。この地域にとって真に必要な取組が求められる。 後々、関係者間でボタンの掛け違いのないように、計画段階でできるだけ具体的な記載に努めてほしい。
秋田県農山村振興課	法の目的は地域活性化なので、農家が元気になるような取組を目指してほしい。 未来志向という方向性は良いが、農家にとってわかりやすい取組である必要がある。技術はどんどん革新していくので、地域や農家のためになる取組がなされるよう、協議会等で検討を続けて行って欲しい。
座長	令和7年までまだ時間があるため、協議会としても状況の変化に対応できるようにしたい。協議会組織のあり方についても検討が必要になる。

### 3. その他

#### <白神ウインド合同会社から説明>

- ・ 工期が当初の予定より遅れ、令和4年3月の基礎工事着工を目指している。また、令和7年3月に25基一斉の運転開始を目指している。
- ・ 工期変更の理由は、系統連系にかかる電力会社の工事期間が短縮されたため。
- ・ 弊社の風力発電事業に対し、度重なる協議をしていただき、感謝している。地域の皆さんから、風車が建って良かったと思ってもらえるよう、排熱利用や農業DXに取り組んでいく。